

## ストリートピアノ：挑戦すること

ふと思い立って昨年（2022 年）の 5 月からピアノを習い始めました。こう書きますと、3 年前に、LRRI を立ち上げた時と同じように、“いまさらなにを”という声が聞こえそうですが、娘たちが置いていって手入れしていないままの古いピアノを眺めるたびに、“いつか”と思ってきたのです。習おうという決心の引き金になりましたのは、何とんでも NHK の「ストリートピアノ」（駅ピアノ、空港ピアノと呼ばれることともあります）という番組で多くの方々が巧みに弾きこなしているのを見るたびに、“あんな風に弾けると楽しいだろうな”という思いが強くなったことでした。

レッスンのために使っている初心者向けのテキストの内容は、当然のことながら優しい曲ばかりですが、その中にジョージ・ポルトン作曲「オーラリー」というのがありました。たどたどしく弾いているうちに、「どこかで聞いてことがある」と気が付きました。それは往年のアイドル、エルビス・プレスリーの“ラブ・ミー・テンダー (love me tender)”でした。

3 月から 4 月にかけて苦労した練習曲は、ランゲの「花の歌」でした。苦労した理由の一つは、ほかの練習曲とは違って今まで聞いたことのない楽曲だったからです。でも、ピアノの先生によると、練習曲としては有名な曲でピアノ発表会などでは、しばしば使われる楽曲とのことでしたので、スマホで検索してみるとたくさんヒットしました。なんだか聞いているうちに、なるほどいい曲だな、と気が付きました。

どんな分野にも、思いもかけない天才的な才能を持った人がいて、つい最近の番組で、「ストリートピアノ」の特集号があり、ハラミちゃんというアーティストがパリで見知らぬフランスのアーティストと一緒に即興の演奏も含めて圧巻の演奏を披露していました。

若いころから、ギターやらトランペットやら試みたことがあり、文学とともに、音楽にも強い思い入れがありましたが、いずれもものになりませんでした。しかしこうして思い立ってチャレンジしてみますと、いくつになっても新しいことに挑戦してみることの大切さに気づかされます。天才的なアーティストのレベルにはとても及びもつきませんが、新たな楽しみになればと思っています。

ただ、6 月末に体調不良から、7 月一杯はレッスンをお休みにさせていただいていますが、ピアノを体調回復のための妙薬にしたいものです。可能かどうかは自信はありませんが、加古隆の「パリは燃えているか」とかあいみよんの「マリーゴールド」を演奏するレベルまで達することを目指していますが、ちょっと無理かな？

創設 4 年目を迎えました LRRI も“脱炭素”など、国家や社会が求める困難な課題にチャレンジして、安全で、安心な、そして、快適な地域づくりに微力ながら貢献することによって信頼される組織になりたいものと念じております。

初めての ピアノで弾いた「花の歌」  
桜の季節に 間にあわずして

（安原一哉，代表理事）